◇第五次長野市地域福祉計画に掲載する取組の好事例

基本施策No.	1-1	タイトル名	大豆島地区　第四次地域福祉活動計画策定委員会	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）			文字数	●写真添付
大豆島地区では、第４次地域福祉活動計画を策定するにあたり、策定委員会、作業部会をそれぞれ開催し、大豆島地区の未来に向けて熱い想いをお持ちの皆さんで話し合いを進めてきました。 大豆島地区第四次地域福祉活動計画は令和８年～令和12年の５ヵ年計画で「まめやか大豆島・ふれあい笑顔」をテーマに、地域福祉推進に向け活動しています。			162	

基本施策No.	1-1	タイトル名	豊野東区　地域福祉懇談会	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
豊野地区は７つの行政連絡区とは別に10の地区に分けた小地域福祉活動を展開しています。そして、各地区に設置されている福祉会の役員や民生委員の方が一堂に会し、活動状況の報告や地区の困りごとを話し合う場として「地域福祉懇談会」を年１回開催しています。			123	

基本施策No.	1-2	タイトル名	ボランティアコーディネーター養成講座	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
長野市ボランティアセンターでは地域の活動者の育成や、何かやりたいという方の思いを受け止め活動へつなげるボランティアコーディネーターの育成を目的に講座を開催しております。令和７年度はボランティアの意味や役割を共有し、地域課題の解決に向けて様々な連携や地域の人材等資源を見つける力、住民が参加したくなるプログラム作り等について学び、体験し活動者同士もつながる講座を実施しています。			188	

基本施策No.	1-2	タイトル名	朝陽地区　傾聴講座　人の話を受け止めるには？	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
コロナ禍においてはヒトと話すことが制限され、それ以降交流する機会が減り、会話をする機会も少なくなりました。「人と話したい」「人に話を聞いてほしい」。そんな地域住民の声を受け止めた朝陽地区住民自治協議会では、人と話すコツを学ぼうと、傾聴講座を企画しました。講座では、座学やグループワークを通して学ぶほか、施設を訪問して実践する機会も設けられており、学びを実際の活動につなげる取り組みが進められています。			200	

基本施策No.	1－3	タイトル名	七二会地区　シルク灯籠を通して小学校と地域がつながり、活性化する	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
七二会小学校では、子供たちが始めた蚕の学習に地域の人がサポートしています。桑の葉の提供や蚕の卵を育てる人、道具を貸す人、育て方を教えてくれる人等が関わります。シルク灯籠づくりのための木枠を作ってくれる元大工さんもいます。また、公民館では灯籠づくりの会を開いて普及するなど様々な関わりが生まれました。地域の人が関わることで、この活動を絶やしてはいけないと感じた方がシルク灯籠応援隊を結成し、地域と学校一丸となって取り組んでいます。			214	

基本施策No.	1-3	タイトル名	朝陽地区　信州大学教育学部附属特別支援学校との連携	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
朝陽地区では、信州大学教育学部附属特別支援学校の授業に地域の方が応援隊として協力しています。地域福祉ワーカーと学校が連携し、地域のボランティア活動者の発掘や広報などを朝陽地区社協で行いました。学校がボランティア向けの説明会を行い、登録する仕組みにしたことで「活動者を迷子にしない」サポートができています。学習のサポートでできたつながりをきっかけに、地域の方がどんど焼きの手伝いにも参加するなど新たなつながりも生まれました。			211	

基本施策No.	1-3	タイトル名	三輪地区　縁側ゆい	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
三輪地区では、平成29年の地区ボランティアセンターの立ち上げとともに、住民自治協議会と協力団体であるボランティア美和が、地域の集いの場「縁側ゆい」を開設しました。週三回平日の午前中に開催し、健康麻雀や体操など、参加者が思い思いに過ごしながら交流を楽しんでいます。気軽に立ち寄り、人との会話やつながりを育む場として、継続的な居場所づくりに取り組んでいます。			177	

基本施策No.	1-4	タイトル名	芹田地区　多文化交流会	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
芹田地区では、地区内にある長野平青学園からの「地域と交流したい」という声をきっかけに、令和５年度から、外国籍の留学生と地域住民が交流する「多文化交流会」を実施しています。七夕には、浴衣の着付けや七夕飾りづくり、日本の伝統文化の体験などを通じて交流を深めています。また、冬には学生が自国の文化を紹介する機会も設けています。継続的な交流を通じて、互いの文化や価値観への理解を深め、地域における新たなつながりの形成を促進しています。		213		

基本施策No.	2-1	タイトル名	安茂里地区　「だれでもカフェやまや」～みんながつどえる場所～	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）			文字数	●写真添付
安茂里地区にある「だれでもカフェやまや」は誰でもふらっと遊びに行ける居場所で、子どもご年配の方もどなたでも気軽に利用できます。自由に多世代がつどい交流できることで、地域で見守り、地域で支える体制が形成されています。			110	

基本施策No.	2-1	タイトル名	川中島地区南原　困りごと手伝い隊	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
川中島地区の南原区では、地域福祉懇談会での話合いをきっかけに、「向こう三軒両隣」の精神を基本とした、住民同士で日常生活の困りごとを支え合う仕組みづくりが進められました。地域の関係者が連携して困りごとの把握や支援に取り組むとともに、それぞれの常会の実情に応じて、雪かきや草取り、買い物代行、ごみ出しなどの生活支援や住民同士の交流事業を行い、地域における支え合いの輪を広げています。			189	

基本施策No.	2-2	タイトル名	朝陽地区　　社会資源マップの作成	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
朝陽地区では８つの行政連絡区ごとに「社会資源マップ」の作成・更新を進めています。平時から地域のつながりを意識した社会資源マップは、地域福祉懇談会などで更新作業を行い、地域で防災・減災に取組んでいます。 写真は令和７年８月に朝陽地区で開催された「福祉セミナー」で防災やマップの作成について学んだときの様子です。			156	

基本施策No.	2-2	タイトル名	他機関と連携した地域の防災教育	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
長野市ボランティアセンターでは、長野市災害委員会と連携し「逃げる準備はいい会？」と題し、災害時に日頃から何を備えておけばよいのかなどを学び、話し合う機会を設けました。持病のある方は普段から飲んでいる薬を、子どものいる家庭では日頃から親しんでいる物を用意するなど、一人ひとりの状況や家庭に合わせて備え方が違うことや普段のつながりの大切さを学びました。障害をお持ちの方や施設関係者も参加し、誰もが安心して避難するために必要な備えについて考える機会となりました。以降、子育てひろばや障害の子を持つ家族の会、外国人支援の団体等に広がりました。			267	

基本施策No.	2-5	タイトル名	長野市における身寄りのない方への支援のためのガイドライン	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
長野市では、身寄りのない高齢者等が入院や施設入所等の際に必要な支援を受けられるよう、令和６年４月に「長野市における身寄りのない方への支援のためのガイドライン」を策定しました。病院・福祉施設・その他関係機関及び支援者間で、身元引受人等に求める役割や標準化するべき事務手順を整理し、関係者間で共有することで、身寄りの有無にかかわらず、安心して住み慣れた地域で生活していけるよう、地域全体の支援体制を構築することを目指しています。			212	

基本施策No.	3-2	タイトル名	吉田地区　福祉活動情報交換会・地域ネットワーク会議	
●説明（説明は200字以内で簡潔に）				●写真添付
吉田地区では、地域のつながりづくりをテーマに、区長、民生委員児童委員、福祉会長、福祉推進員、介護事業所、医療関係者、行政等が参加する情報交換会を開催しています。各地区の取組やアイデアを共有し、企画シートの作成や実践事例の発表を通じて、具体的な活動につなげています。他地区の取組を参考にサロンを始めたり、地区内事業所との連携が生まれたりするなど、地区の枠を越えた交流が新たな活動の展開につながっています。			201	